

# 日本古生物学会 第 174 回例会

2025年1月24日（金）～1月26日（日）

オンライン

ホスト：日本古生物学会行事係

## \*\*\*\*\* 1. プログラム 概要 \*\*\*\*\*

### 1月24日（金）会場：Zoom A会場

- 【13:00–17:00】 シンポジウム「古生物の食性と古生態系を探る」…………… ii
- 【18:00–20:00】 オンライン懇親会…………… ii

### 1月25日（土）会場：Zoom A,B会場

- 【10:00–11:00】 特別講演 平沢達矢（A会場）  
「古生物学と進化発生学の統合による脊椎動物形態進化解明」…………… iii
- 【11:15–12:15】 一般講演 口頭発表1（A, B会場）…………… iii
- 【12:30–13:30】 ランチョン小集会1（A会場）「島の哺乳類の進化に迫る」…………… iii
- 【12:30–14:00】 ランチョン小集会2（B会場）「古生物における3Dデータ」…………… iv
- 【14:15–14:50】 ポスター発表コアタイム A会場各ブレイクアウトルーム…………… v  
14:15–14:45 講演番号末尾 A, 14:50–15:20 講演番号末尾 B
- 【15:30–16:30】 一般講演 口頭発表2（A, B会場）…………… vii
- 【16:45–17:30】 一般講演 口頭発表3（A, B会場）…………… vii
- 【17:40–17:55】 ポスター表彰式（A会場）…………… vii
- 【18:10–19:40】 夜間小集会「古生物学と改正博物館法」（B会場）…………… viii

### 1月26日（日）会場：Zoom A,B会場

- 【10:00–11:10】 一般講演 口頭発表4（A, B会場）…………… ix
- 【11:15–12:15】 一般講演 口頭発表5（A会場）…………… ix
- 【12:30–13:30】 ランチョン小集会3（B会場）「ジオパーク」…………… x
- 【13:45–15:00】 一般講演 口頭発表6（A会場）…………… x
- 【15:15–16:45】 アフタヌーン小集会（B会場）「シン・形態学」…………… xi
- 参加登録方法，発表方法と機器について（必ずお読みください）…………… xi
- ポスター発表の方へ（ポスター発表者は必ずお読みください）…………… xiii
- その他（Zoomの準備等）…………… xiv

### 第 174 回例会参加費

一般会員 5,000 円，学生会員 1,500 円，友の会会員 1,000 円，一般非会員 6,000 円  
学生非会員 2,500 円，名誉会員，高校生以下無料（会員・非会員問わず）

**第 174 回例会（オンライン）は事前登録制**です。以下サイトにて**第 174 回例会専用アカウント登録と参加登録，決済**をしてください（招待者，名誉会員，高校生以下の方は「無料枠」を選択）。

<https://psj174.award-con.com/LOGIN.php>

## \* \* \* \* \* 2. プログラム 詳細 \* \* \* \* \*

1月24日（金） 【13:00-17:00】 ZOOM A会場

**シンポジウム「古生物の食性と古生態系を探る」**

コンビナー:ロバート・ジェンキンズ(金沢大学)・野牧秀隆(JAMSTEC)

趣旨：生物の生存にはエネルギーと栄養の獲得が欠かせず、自ら有機物を生成する独立栄養生物以外の従属栄養生物は、「食べる」ことでエネルギー源となる有機物や栄養を摂取する。これは動物に限らず、原核生物や原生生物でも同様である。この捕食と、対となる被食との関係は、例えばカンブリア紀の生体硬組織の獲得や中生代の海洋変革に代表される捕食圧の高まりによる生物多様性の増加や被食者の棲み場所の変化をもたらすなど、生命進化の大きな原動力となってきた。また、生物同士の捕食-被食関係は生態系の基本要素でもあるため、生態系の進化を理解する上で、個々の古生物の食性を明らかにすることはもちろんのこと、他の生物との関係や生態系における位置を解明していく必要がある。古生物の食性解析は、歯や顎などの採餌器官の形態や消化管内容物や糞化石、捕食痕、硬組織中の元素組成や同位体分析などによって研究されつづけてきた。本シンポジウムでは、原生生物から無脊椎動物、脊椎動物までを対象として、生物にとっての「食べる」ことの意味に立ち戻りつつ、最新の観察事例や分析ツールを活用した、個々の古生物の食性や生物同士の捕食-被食関係、古生態系の推定、コンピュータシミュレーションから見えてきた生態系における各食性の役割についての研究を紹介し、古食性や古生態系の進化解明への展望を議論したい。

- 13:00-13:10 シンポジウムの趣旨：ロバート・ジェンキンズ（金沢大）
- 13:10-13:40 歯の三次元マイクロウェア形状解析に基づく中生代脊椎動物の食性：久保 泰（早稲田大学）・久保麦野（東京大学）
- 13:40-14:10 ブロマライト —古食性の直接証拠—：中島保寿（東京都市大学）
- 14:10-14:40 食痕化石に基づく植物と昆虫の相互作用の進化・変遷の解明：今田弓女（京都大学）
- 【14:40-14:55】 —休憩—
- 14:55-15:25 飼育・観察できない深海生物の食性解析手法：野牧秀隆（JAMSTEC）
- 15:25-15:55 個別アミノ酸窒素同位体比分析に基づく栄養段階推定法の化石への応用にむけて：ロバート・ジェンキンズ（金沢大学）
- 15:55-16:25 肉食動物は生き延びることができるか？：吉田勝彦（環境研究所）
- 【16:25-16:40】 —休憩—
- 16:40-17:00 総合討論

【18:00-20:00】懇親会（オンライン ZOOM A会場）

1月25日（土） オンライン ZOOM A会場 B会場

【10:00-11:00】 A会場

特別講演 平沢達矢（東京大学）

「古生物学と進化発生学の統合による脊椎動物形態進化解明」

【11:00-11:15】 休憩

【11:15-12:15】 一般講演 口頭発表1（A, B会場）

A会場	B会場
古脊椎の部1 座長：高津翔平	古海洋の部1 座長：佐藤 圭
A01 平山 廉・猪瀬弘瑛・土屋祐貴・藤田英留・鶴野 光・仲谷英夫・久保 泰・大石裕二郎・鷺野結衣・清川 顕 福島県塙町の中新統久保田層から産出したインガメ科のカメ類：予報	B01 向井一勝・田中源吾・山田敏弘 北海道黒松内町瀬棚層より産出した介形虫化石群集とその意義
A02 菌田哲平・柴田正輝 福井県勝山市の下部白亜系手取層群北谷層より産出した新たなアトクス科カメ類	B02 山崎和仁 過去の地球システムにおける海洋古生物の役割：炭素循環の例
A03 坂本拓海・池田忠広・實吉玄貴・高橋亮雄・石垣 忍・ヒシグジャフツォクトバートル モンゴル国中央ゴビの上部白亜系ジャドフタ層より産出した モンスターサウリア類化石（爬虫綱有鱗目）の分類学的研究	B03 延原尊美・石村豊穂・西田 梢・佐藤圭・池原 研 最終氷期最盛期付近における黒潮流域の陸棚斜面上部の水塊復元
A04 関谷 透・柴田正輝・湯川弘一・Pratueng Jintasakul・Wilailuck Naksri・Duangsuda Chokchaloemwong タイ王国のコククルアト層（下部白亜系）から産出した竜脚類恐竜化石について	B04 吉村太郎・佐藤英明・佐々木猛智 ベイズ推定による貝殻微細構造の祖先復元と進化方向性

【12:15-12:30】 休憩

【12:30-13:30】 ランチョン小集会1 A会場

**島の哺乳類の進化に迫る**

世話人：林 昭次（岡山理科大学）、久保 麦野（東京大学）

趣旨：趣旨：島では動物は独特の進化をする（島嶼化）。特に体サイズについては、「小さい動物は大きくなり、大きい動物は小さくなる」という「島のルール」が良く知られている。一方で、島嶼化のプロセスには未知の点が多い。本小集会では、近年世話人らが取り組んできた島嶼の哺乳類研究をまとめて紹介し、現時点までの到達点とこれからの課題を示す。日本はその地理的な特徴から島嶼哺乳類の研究が進めやすい利点がある。多くの若い方々にとって、島でのユニークな進化に目を向けるきっかけにしたい。

**話題提供**

久保麦野：「絶滅種リュウキュウジカの生態に迫る：島嶼化と絶滅」

林 昭次：「骨組織学から明らかになった島嶼哺乳類の特殊性：現生種と化石種の分析から」

**意見交換**

**【12:30-14:00】 ランチョン小集会 2 B 会場**

**古生物における 3D データの権利・取り扱いについて考える**

**世話人：今井拓哉（福井県立大学）・丸山啓志（千葉県立中央博物館）・黒須球子（TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校）**

趣旨：近年、古生物学分野においても、3D データによる調査研究、展示、教育普及などが活発になっている。一方で、古生物学における 3D データ活用には広くオーソライズされたガイドラインがなく、各種規範の遵守や権利の保護はそれぞれの組織の裁量によるところが大きい。

そこで、本小集会では、3D データの活用や取り扱いについての事例報告を行うことで現状を共有し、法律的な視点から 3D データの取り扱いに関する考え方について外部講師からの見解を伺う。さらに、小集会参加者による意見交換をとおして今後の課題と展望について議論することで、古生物学における 3D データ活用のガイドライン作成を目指した基盤を作りたい。

※この小集会の内容の一部は、科研費 22K01021 の助成を受けました。

**話題提供(一人7分 計21分)**

丸山 啓志(千葉県立中央博物館)「お手軽 3D スキャンによる 3D データの収集」

今井 拓哉(福井県立大学)「3D データのメタバースにおける活用」

河部 壮一郎(福井県立大学)「博物館現場における、3D データ活用の試行錯誤」

**講演(30分)**

永野 亮(BACeLL 法律会計事務所)「3D データに関する各種権利と取扱い」

**総合討論**

**【14:00-14:15】 休憩**

**【14:15-14:45】ポスター発表 コアタイム A**

(高校生およびポスター番号 10 まで (末尾 A) )

**A 会場ブレイクアウトルーム**

- H01-A 藤澤樹花・西山知里・朝海芽生・伊藤 咲・鈴木彩夏・角野凜子・栗原 正 群  
馬県榛名火山中腹から産出した魚の耳石化石
- H02-A 上野心結 北海道北部下川町の植物化石から気候変動を知る
- H03-A 石井奏風 ワカヤマソウリュウの泳ぎをロボットを使って検討する
- P01-A 李 慶易・Marc Humblet 第四紀サザナミサンゴ科、ダイオウサンゴ科とルリサンゴ科の造礁サンゴに対する属レベルの内部構造解析
- P02-A 坂根広大・賀 一鳴・田上 響・高桑 祐司・多田誠之郎・河部壮一郎 ネオケラトプシア類の進化で起こった上顎における血管神経管形態の変化
- P03-A 吉村太郎・岸本卓大・白鳥俊宏・中原行健・大野望・佐藤颯哉・玄振鐸・高橋英俊・大宮正毅・佐々木猛智 硬殻捕食への適応と殻層構造の収斂進化
- P04-A 宇津城遥平・小林快次 頸部形態から示唆される主竜類の S 字型頸部の進化
- P05-A 石寄美乃・吉村太郎・椎野勇太・佐々木猛智 シャミセンガイ類の殻が持つ微細構造の多様性
- P06-A 山本麻優・ロバート・ジェンキンス 鯨遺骸に成立する微生物叢：化学的環境と遺骸分解における微生物の役割
- P07-A 飯泉克典・国府田良樹・木村由莉 *Stegolophodon pseudolatidens* (長鼻目) タイプ標本の再検討
- P08-A ミシェル・ハーベル・菊池芳文 茨城県東海村の上部更新統から産出したシロテンハナムグリ (*Protoetia orientalis* (Gory & Percheron, 1833)) 化石の記載
- P09-A 唐沢與希 北海道中央部三笠地域の上部白亜系蝦夷層群から産出したアンモノイド類 *Nowakites* 属 (パキディスカス科)
- P10-A 酒井佑輔・藺田哲平・寺田和雄 岐阜県白川村大白川地域の下部白亜系手取層群より産出した植物化石

**【14:50-15:20】ポスター発表 コアタイム B**

(ポスター番号 11 から 23 まで (末尾 B) )

**A 会場ブレイクアウトルーム**

- P11-B 西村智弘 北海道穂別サヌシュベ川上流域の白亜系層序と大型化石層序
- P12-B 小沢広和・Smith, R. J.・西田澄子・中井静子 マンションのベランダのスイレン栽培水槽における現生淡水生貝形虫類の外来種と古生物学的意義
- P13-B 齋藤皓太・佐藤たまき・望月貴史 岩手県北東部の上部白亜系種市層より産出したワニ類化石の初報告

- P14-B 高津翔平・今井拓哉・河部壮一郎・服部創紀・藺田哲平・湯川弘一 岐阜県飛騨市神岡地域から下部白亜系初となる脊椎動物骨化石の発見と堆積年代の推察
- P15-B 大賀理裕・林 昭次・對比地孝亘・ツクトバートル ヒシグジャウ X線 CT 解析による堅頭竜類の歯の交換様式
- P16-B 張本太成・桑原希世子 美濃帯郡上八幡セクションにおけるペルム紀末の放散虫殻サイズ変動
- P17-B 石垣 忍・B. マインバヤル・Kh. ツオクトバートル モンゴル国ゴビ砂漠西部の上部白亜系ネメグト層からの大型鳥脚類行跡化石群の発見とその意義
- P18-B B. マインバヤル・Kh. ツオクトバートル・石垣 忍 モンゴル国中央県サイジュラハ山下部白亜系の「モンゴル初の恐竜足跡化石産地」の再発見
- P19-B 加藤太一・村田一弘・小川朋希・宮田真也・増川玄哉・安藤寿男 上部白亜系那珂湊層群の化石発掘調査の現状と課題
- P20-B 鎌田祥仁・柳沢真悠花・原 英俊・上野勝美・Thasinee Charoentitirat・Apsorn Sardsud タイ国南東部 SoiDao 地域の層状泥岩から産出したペルム紀後期放散虫と挟在する凝灰岩から得られたジルコン U-Pb 年代
- P21-B 久保孝太・平沢達矢 成長曲線モデルを用いた獣脚類の後肢比率成長変化の推定
- P22-B 端崎陽平・ロバート・ジェンキンズ・小木曾正造・神谷隆宏 能登半島九十九湾の海棲脊椎動物遺骸に形成される貝形虫群集
- P23-B 加藤涼雅・佐藤たまき・今井 健・高橋 修 北海道稚内地域の上部白亜系より産出した首長竜類化石の肢帯

**【15:20-15:30】 休憩**

## 【15:30-16:30】一般講演 口頭発表2 (A, B会場)

A会場	B会場
古脊椎の部2 座長: 久保麦野	古植物の部 座長: ジュリアン・ルグラン
A05 浅井勇馬・林 昭次・澤村 寛・新村龍也・安藤達郎 北海道釧路市阿寒の中新統殿来層産 <i>Paleoparadoxia</i> の分類学的再検討と多様化への示唆	B05 成田敦史・乙幡康之 北海道糠平地域の上部中新統から産出したチョウノスケソウ類縁葉化石
A06 下田真緒・上松佐知子・張鈞翔・木村由莉 「不思議の島」の入口で: 男女群島沖から産出した日本最大の <i>Palaeoloxodon</i> 類(長鼻目,ゾウ科)の下顎第3大臼歯	B06 矢部 淳・齊藤 毅・山川千代美 京都府宇治田原町の下部中新統綴喜層群の植物化石群集
A07 大野理恵・下田真緒・小林英一・堀口隆士・薬師大五郎・木村由莉 「都の西北、早稲田の森に」: 神田川河床から産出した更新世シカ類の乳臼歯についての予察	B07 山田敏弘 愛知県南知多町の下部中新統師崎層群から産出した海草化石
A08 森田亜美・ロバート・ジェンキンス・水野吉昭 師崎層群産ホウライエソ属化石の骨格記載—脊索の発達について—	B08 藤井駆陸・矢部 淳・湯川弘一・今田弓女 日本産新生代植物化石における潜葉痕の多様性

## 【16:30-16:45】休憩

## 【16:45-17:30】一般講演 口頭発表3 (A, B会場)

A会場	B会場
古脊椎の部3 座長: 木村由利	古生態の部 座長: 延原尊美
A09 瓦亮狄・張鈞翔・蔡政修 台湾の巨象を量る:パレオロクソドンの体重推定とその生態学的意義	B09 大野理恵・江崎洋一 キサンゴ科無藻性サンゴ <i>Dendrophyllia ijimai</i> で見られる主軸機能の置換とその意義
A10 仲井大智 椎骨における掘削適応の機能形態学的研究: 異節類(哺乳綱異節上目)がもつ異節関節の適応的意義の探索	B10 森野善広 上部ジュラ系小池石灰岩の堆積相と生物相(その4): ラビンメント面上の固着性生物の古生態(hardground community)
A11 戸田雄介・甲能直樹 千葉県「名洗礫岩層」より産出した髭鯨類鼓室胞に基づく鮮新世髭鯨類相の再評価1	B11 石寄美乃・椎野勇太・佐々木猛智 表在生物の群集形成様式からみた腕足動物スズメガイダマシの生態的優位性

## 【17:30-17:40】休憩

## 【17:40-17:55】ポスター賞表彰式 (A会場)

## 【17:55-18:10】休憩

**【18:10-19:40】 夜間小集会 B 会場**

**古生物学と改正博物館法**

**—古生物学の現場で、何が変わった？何が変わる？—**

世話人:丸山啓志(千葉中央博物館)・中尾智行(文化庁)

2023 年 4 月の改正博物館法施行から、丸 2 年が経ち、新しくなった博物館登録制度の経過措置期間(改正法以前からの登録博物館は改正博物館法施行から 5 年以内に再登録の手続きを取る必要がある)が残り 3 年と迫っている。この状況において、各地で新しい博物館登録制度による見直しなどが進められている。また、改正博物館法には努力義務として、1)博物館資料のデジタル・アーカイブ化、2)博物館職員の養成及び研修、3)他の博物館等との連携による事業の充実、4)地域との連携・協力による文化観光その他の活動での地域の活力向上が新しく加えられ、注目が集まっている。

こうした大きな変化は、古生物学に関わる博物館活動も無関係ではいられない。一方で博物館職員(学芸員)は、化石などの大小様々な資料を収集・保管し、調査・研究が行われ、展示やイベントといった普及活動を行なっている。その中で、改正博物館法をフォローするのが容易ではない。そこで、この夜間小集会では、まず、文化庁博物館支援調査官の中尾智行氏に、改正博物館法の概要やこれからの博物館に関する展望について講演いただく。その後、博物館法改正に伴う博物館現場の実例 2 件を紹介する。そして、演者とフロアの方との間で質疑応答や意見交換を図る。このようなやりとりを通して、参加者(学芸員や研究者等)が改正博物館法とこれからの博物館について理解を深めることを目的とする。

\*この小集会の内容の一部は、科研費 22K01021 の助成を受けた。

※夕ご飯を食べながら、お茶やお酒を飲みながら、誰でも気軽にご参加できます。

**【はじめに】:5 分**

- ・丸山 啓志(千葉中央博物館) 「開催趣旨」

**【基調講演】:40 分**

- ・中尾 智行(文化庁) 「改正博物館法とこれからの博物館」

**【話題提供】:20 分(1 人 10 分×2 件)**

- ・久我光馬 (神奈川県教育委員会) 「行政としての博物館登録手続き」
- ・同前万由子 (三笠市立博物館) 「三笠市立博物館が登録博物館になるまで」

**【質疑応答】20 分**

参加者から生の声を募り、文化庁と現場の方の意見交換を行い、現状の課題を共有する。

**【終わりに】:5 分**

- ・丸山 啓志(千葉中央博物館) 「まとめにかえて」

1月26日（日）会場：オンライン ZOOM A, B会場

【10:00-11:00】一般講演 口頭発表4（A, B会場）

A会場	B会場
古脊椎の部4 座長: 對比地孝亘	分類・層序・普及の部 座長: 山田敏弘
A12 野口愛友・藤原慎一 下顎の内側の輪郭から探る鳥類の摂食様式	B12 大山 望・Torsten Wappler・John M. Anderson・Olivier Béthoux 南アフリカ上部三畳系モルテノ層のハチ目 <i>Moltenia rieki</i> の再記載と分類学的所属の再検討
A13 木村由莉・山田桂太・関あずさ・鈴木希実 歯エナメル質-食物間の炭素同位体分別における高精度モデル式の構築	B13 向井一勝・田中源吾・山田敏弘 北海道黒松内町瀬棚層より産出した <i>Howeina</i> 属未記載3種
A14 山北 聡 コノドント器官における“対称性遷移系列”の幻影と“S0”表記の“U”での置き換え	B14 桃崎瑛弘・前田晴良・大山 望 下部ジュラ系豊浦層群西中山層下部におけるアンモノイド化石層序の再検討
A15 三宅雄真・ロバート・ジェンキンス・小木曾正造 鯨骨に見られる微小穿孔痕 - 能登九十九湾浅海における鯨骨設置実験の例 -	B15 松岡 篤 遍路道を活用したジオパークツアー：四国西予ジオパークのジュラ紀付加体斗賀野層群

【11:00-11:15】休憩

【11:15-12:15】一般講演 5 口頭発表2（A会場）

A会場
古脊椎の部5 座長: 林 昭次
A16 柴田正輝・河部壮一郎・今井拓哉・ハリス・ボーケンハイド・キャリー・ウッドルフ・陣内香苗・真橋尚吾・兵頭秀樹・若林佑・竹内聖喬・高田健次・辻川哲也 医療用CTスキャナーによるブラキロフォサウルス・カナデンシス（鳥脚類ハドロサウルス類）の古病理学的研究
A17 幸地 佑・河部壮一郎・今井拓哉・柴田正輝・星野真人・上杉健太郎 放射光X線μCT法による鳥脚類イグアノドン類上顎歯における巨大管状組織の三次元的解析
A18 多田誠之郎・對比地孝亘・石川弘樹・脇水徳之・河部壮一郎・坂根広大 トリケラトプスを含むケラトプス類における吻部軟組織
A19 小山誠也・對比地孝亘 爬虫類の脊髄と神経孔サイズの関係とその古生物学的意義

【12:15-12:30】休憩

## 【12:30-13:30】ランチオン小集会 3 B 会場

## ジオパークとお付き合いしませんか？～多様な活躍の場の一つとして～

世話人：榊山 匠（四国西予ジオパーク）

趣旨：ユネスコ(UNESCO)の自然保護プログラムの一つであるジオパークでは、地球科学的意義のあるサイトや景観を保護、教育、持続可能な開発のすべてを含んだ総合的な考え方によって管理している。その活動は社会に対し、46 億年の地球の歴史が人の暮らしや社会に影響を与えていることを再認識し、変動帯の中で私たちがサステナブル(持続可能)な社会を模索する機会を生み出している。2024 年 12 月現在、国内には日本ジオパーク委員会によって認定を受けた 47 のジオパークが存在し、蝦夷層群や手取層群など古生物学でも重要な地質体をエリアに含むジオパークも少なくない。本小集会では、各地のジオパークで働く4名の学会員からお話を伺うことで、古生物学に関わる研究者・学生の皆さんがジオパークと上手に付き合い、ジオパークを活躍の場のひとつとして考えるきっかけとしたい。

## 話題提供者：

唐沢與希(三笠市立博物館)

山岡勇太(埼玉県立自然の博物館)

柿崎喜宏(室戸ジオパーク)

船場大輝(四国西予ジオパーク)

## 【13:30-13:45】休憩

## 【13:45-15:00】一般講演 口頭発表 6 (A 会場)

A 会場	
古脊椎の部 6	
座長：河部壮一郎	
A20	犬塚則久 防御戦略からみた剣竜類と曲竜類の復元姿勢
A21	大藪隼平・小林快次 モンゴル産鎧竜類の体骨格化石に残された、生痕のタイプ・サイズ・分布の傾向
A22	山口耕平・久保 泰・久保麦野 足跡化石の分析による竜脚形類の形態と歩行様式の時代変化
A23	築地祐太・金 幸生・鄭 文傑・東 洋一・野田芳和・柴田正輝 中国浙江省義烏市の白亜系から産出した脊椎動物の足跡化石群
A24	湯川弘一・Krongkaew Jenjitpaiboon・野田芳和・Pratueng Jintasakul・柴田正輝・Wilailuck Naksri・Duangsuda Chokchaloemwong 下部白亜系コククルアト

層（タイ王国）の骨化石含有層とその堆積環境

【15:00-15:15】 休憩

【15:15-16:15】 アフタヌーン小集会 B 会場

シン・形態学 — 現実【カタチ】対仮想【デジタル】

世話人：岡村太路（名古屋大学）・藤原慎一（名古屋大学博物館）

趣旨：フォトグラメトリやレーザースキャン、CT 撮像の普及により、標本の 3D データを高精度かつ大量に取得できるようになった。これらの技術から得られた 3D デジタル標本は、展示などの教育的利用はもちろんのこと、多彩な形態学的研究の展開の可能性を秘めている。この集会では、デジタル形態測定、系統種間比較、シミュレーションを用いた骨格復元など、博物館で取得された 3D デジタル標本を活用した実践的な形態学的研究を紹介する。そして、今後さらに拡大して行くデジタルアーカイブを見据え、スキャン技術や 3D デジタル標本の新たな可能性を模索したい。

話題提供

野田昌裕（京都大学）

豊田直人（京都大学）

中山晃輔（名古屋大学）

\*\*\*\*\* 3. 参加登録方法，発表方法と機器について \*\*\*\*\*

## <参加登録方法>

第 174 回例会は登録も講演も参加も全てオンラインです。講演は、口頭発表とポスター発表ともに Zoom を利用します。講演の発表・視聴には、以下第 174 回例会専用サイトにおいて、（1）アカウント登録 および （2）参加登録 が必要です。

第 174 回例会専用サイト

<https://psj174.award-con.com/LOGIN.php>

アカウント登録，参加登録，ポスター資料アップロード，講演視聴はすべてこの専用サイトで行います。

登録方法の詳細は学会ウェブサイト（以下 URL）にアップロードした簡易マニュアルを参照してください。

[https://www.palaeo-soc-japan.jp/events/manual\\_simple.pdf](https://www.palaeo-soc-japan.jp/events/manual_simple.pdf)

## <口頭発表をされる方へ>

- ・口頭発表では、ご自身で Zoom の画面共有を行って頂きます。
- ・Zoom で講演するためには、マイクとスピーカー付きの端末が必要です（内蔵外付け不問）。
- ・Zoom への接続時にはかなりの通信量が発生します。回線が細いと（上り 10 Mbps 以下等）接続が不安定になる恐れがあります。発表者をご自身の責任で安定した接続環境を確保して下さい。
- ・Zoom の使用に不馴れな発表者の方は、事前に、Zoom 社のテストミーティング（<https://zoom.us/test>）に接続して接続試験を実施しておいて下さい。この接続試験は、お使いの端末での接続環境（Zoom の起動、スピーカーとマイク）を確認していただくものです。発表当日に利用する端末および接続環境においてお試してください。
- ・ご自身の講演の順番になったらスライド画面を共有して下さい。次の演者に替わる際には速やかに「共有の停止」を押して下さい。
- ・共有画面の縦横比は4:3でも16:9でもどちらでも構いません。
- ・**シングルモニターのノートパソコンでのスライドショーの共有方法：**
  - 方法1) 「共有」から、PowerPoint を選択・共有した後に、スライドショーを開始。  
※zoomでの画面共有で「発表者ツール」が共有されてしまった場合は、「発表者ツール左上の「表示設定」－「発表者ツールとスライドショーの切り替え」を選択すると共有されている画面が入れ替わります。
  - 方法2) Powerpoint でスライドショーを開始し、その状態で Alt+Tab (Windows) または Command(⌘)+Tab (Mac) のキーを押して Zoom に画面を切り替え、「共有」で「PowerPoint スライドショー (+ファイル名)」を選択して「共有」を押す。
- ・Zoom への接続やパソコンの操作は、発表者ご自身でお願いします。
- ・一般講演の口頭発表時間は15分です（質疑応答、画面共有操作の時間含む）。
- ・講演中は、時計をタイムキーパーのビデオに表示し、ご自身で残り時間を確認して頂く予定です。サムネイルビデオを非表示にすると時計が見えなくなるので、ご注意ください。

## ＜ポスター発表をされる方へ＞

ポスター講演を申し込みされた方は、アカウント登録と参加登録を済ませた後に、以下のそれぞれを所定の期間内に実施してください。

- (1) 講演情報（講演タイトルと発表者名）の入力：2025年1月16日（木）まで
- (2) ポスター発表資料アップロード：2025年1月23日（木）まで

ポスターファイルは、30MB以下のPDFとして作成して下さい。縦横比や枚数は問いません。講演情報入力サイトおよびポスター発表資料のアップロードは、以下第174回例会専用ページへのログイン後に表示される「ポスターアップロード」ボタンをクリックして行ってください。

<https://psj174.award-con.com/LOGIN.php>

・コアタイムには、講演毎にZoomのブレイクアウトルームを割り当て、その中で参加者と議論して頂きます。ブレイクアウトルームを利用するために、Zoomを最新版にしておいて下さい。ブレイクアウトルームで各自資料を画面共有して頂けます（上記でアップロードした資料以外を共有して頂くこともできます）。

### 発表方法に関する問い合わせ先

行事係：ロバート・ジェンキンズ（金沢大学）

E-mail：[psj-meeting@palaeo-soc-japan.sakura.ne.jp](mailto:psj-meeting@palaeo-soc-japan.sakura.ne.jp)

## ＜ポスター賞審査にエントリーされた方へ＞

第174回例会より、ポスター賞審査にエントリーした発表について、ポスターにエントリーロゴ（右図）を配していただくようになりました。

以下URLからエントリーロゴをダウンロードしていただき、ポスター資料の右上の見やすい箇所につけてポスターを作成してください（今回はオンライン発表ですが、印刷版ポスターで幅10cm程度の大きさになることを想定して、見やすい大きさとしてください）。



[https://www.palaeo-soc-japan.jp/events/BestPosterAward\\_EntryLogo.png](https://www.palaeo-soc-japan.jp/events/BestPosterAward_EntryLogo.png)

## その他

- **懇親会について**：2025 年 1 月 24 日（金）18 時—20 時にオンライン（A 会場）で実施します。ブレイクアウトルームを設置し、懇親会前半には各ルームにランダムで割り振り、適宜組み替えを行う予定です。
- **録画・撮影について**：発表者の許可なく講演を録画・保存・撮影することを禁止します。
- 演者以外はマイクとビデオをミュートして下さい。チャットも濫用しないでください。
- **予稿集について**：冊子体は配布しません。学会 HP から PDF をダウンロードしてご利用ください。また、会期中には例会専用サイトからも各講演の要旨をダウンロードできるようにします。
- **Zoom のインストール**：本オンライン例会では、Zoom というアプリケーションを使います。Windows 7 以降、Mac OS 10.9 以降の OS で使えることになっています。参加される方は、ご自身で事前に Zoom をインストールして下さい。Zoom は以下の公式ダウンロードセンターから入手できます。

[https://zoom.us/download#client\\_4meeting](https://zoom.us/download#client_4meeting)

- **Zoom の最新版へのアップデート**：Zoom アプリケーションが古いバージョンのままですと、当日接続時に強制的なアップデートが働いてすみやかにオンライン会場に入れなないことがあります。事前に最新版にアップデートしておいてください。アップデートには Zoom アカウントが必要です。Zoom アカウントをお持ちでない方は、<https://zoom.us/> から Zoom の公式サイトにアクセスして、ページ右上「無料でサインアップ」をクリックし、表示に従ってサインアップしてアカウント（無料でも可）を作成して下さい。アカウント作成後、Zoom を起動して「サインイン」を選択、登録したメールアドレスとパスワードを入力してサインイン、右上に小さく表示されているプロフィールボタンをクリックして表示されるメニューから「更新をチェック」で最新版にアップデートできます。

**※Zoom アカウント作成時の注意**：Zoom アカウント作成時に、生まれ年を入力する年齢認証があります。その際、16 歳未満となる年を入力するとアカウントを作成できなくなりますのでご注意ください。古生物学会に参加しようとする 16 歳未満の方は、保護者の方に Zoom のアカウント作成を依頼してください。

- 第 174 回例会は登録も講演も参加も全てオンラインです。技術的な個別のお問い合わせには学会として対応できませんので、ご自身の責任でご準備の上ご参加ください。